

第3回懇話会でいただいた意見の概要

1 意見書の提出について

- ・懇話会での意見を取りまとめ、意見書という形で市に提出することをもって、本懇話会の成果とするのはどうか。

2 「施設・管路の老朽化や強靱化にかかる整備需要への対応」に係る事項

(1) 施設・管路のダウンサイジング及び耐震化

- ・今回は「ダウンサイジング」と「耐震化」の2つが大きなテーマで、そのうち「耐震化」は、全国的にも一番の喫緊の課題となっている。これらの事業をどの段階で進めていくのか、実施時期が非常に重要であると考えますが、市の考えはどうか。
- ・インフラのダウンサイジングは、維持管理コストにかかる将来世代の負担を抑える意味でも必要だが、近年、新潟市で寒波の影響により配水池の水が不足した例もあったことから、縮小により不利益を受ける市民が出ないよう、十分配慮しながら進められたい。
- ・管路の更新については、丁寧に管種を選択し、コストダウンを図るとともに、更新のスピードアップを図ることが現実的ではないか。
- ・A I劣化度診断の導入で、管路更新の考え方を変更する場合、不安を感じる市民もいると思うので、その有用性をしっかりと検証し、説明責任を果たしたうえで、着実に更新を進めていただきたい。
- ・昭和38年に整備された鑄鉄管が、61年経過しており、市民から見ると本当に大丈夫なのか不安がある。管路更新を進めるにあたり、市民に対する情報発信を行う際には、スケジュールと経費を示したうえで、事業の実施内容を具体的に示すと、より分かりやすいのではないか。
- ・災害発生時に、市役所、病院、警察、消防が機能できなくなってしまうと、市民の不安も増大するため、そういった重要な施設への管路の耐震化を優先して行うべきではないか。

(2) 施設の耐震化

- ・浄水施設の耐震化率について、全国は43.4%で、長岡市は0%となっているが、どのように考えているか。また、どれくらいを目標値として考えているか。
- ・平成16年に中越地震が発生したが、その際の妙見浄水場の被害状況はどうだったか。

(3) 他部署との連携

- ・新潟県の総合計画では、合計特殊出生率2.07以上を目標とする旨の報道があった。現実的には難しいと思うが、今後の水道事業を考えていく中で、こういった数値をどのように捉えるのか。
- ・市町村合併により、長岡市は中山間地を多く抱えることになったことから、水道局だけでなく、他部署ともきちんと連携をして土地自体の危険性を認識したうえで、様々な計画を立て、着実な強靱化を図っていただきたい。

(4) 全般事項

- ・全般的な事項として、水需要や施設の現状と見通しを市民に丁寧に説明し、理解してもらおうよう努めてほしい。
- ・節水意識は高まっているが、そのことで水道事業を圧迫してしまうということについてジレンマを感じている。
- ・次回以降、事業の具体的な計画を説明する際には、複数案を示した中で、その考え方やメリット、デメリットについて委員から検証していただくようなイメージで資料を作成していただきたい。

3 「施設・管路の維持管理にかかる効率の向上」に係る事項

(1) 施設・管路の長寿命化

- ・管路の劣化進行抑制目的で行う消石灰注入については、効果が非常に上がったという事例があまりなく、費用対効果の面からしても難しいと思われる。そのため、費用を管路更新に充てた方が、より事業効果が見込まれるのではないか。
- ・水道水は飲み水なので、消石灰を注入することに対する抵抗感を率直な意見として感じた。
- ・消石灰について、錆には良いのかもしれないが、身体にはどうなのか、と感じた。効果があまり認められないという意見もあったので、導入するののかについては少し検討いただきたい。

(2) 施設・管路の維持管理の効率化

- ・管路の更新率が、全国平均と比べても非常に低い状況になっている。どうやって更新率を上げていくのが課題となるが、AIの活用はいい取組だと思うので、こういったことを含めて、課題に対し「こういった取組により、ここまで数値を上げる」というものが示されれば、次の議論につながると思うがどうか。
- ・今後は、AIを活用して効率的に事業を進めていく必要があると思う。令和5年度から漏水調査にAIによる画像分析を導入しているとのことだが、その成果はどうか。

(3) マンパワー低下への対応

- ・技術継承についても、全国的に大きな課題になっており、様々な研修も行われているので、情報収集を行ってはどうか。
- ・水道局職員のマンパワーの低下について説明があったが、民間事業者も同じかそれ以上に厳しい状況にあるため、現状を踏まえて、一丸となってやっていくような方法にしないと難しいのではないか。
- ・小規模な水道事業者では、高齢化で事業をやめたいというところも多く、また、長岡市内には大手の水道事業者がいないことから、官民連携が難しい部分もあるのではないか。
- ・技術の継承については、早めにマニュアルを作成するなど、しっかりと行っていただきたい。
- ・官民連携にあたっては、商工会議所と市が一体となって取り組む必要があるのではないか。

(4) 広域連携

- ・災害復旧など広域連携で対応することもあるので、今後将来的に向けた考え方としては、広域連携も必要ではないか。
- ・周辺市町村も人口が減少していくことになると思われるため、水を売ることも考えてはどうか。

(5) 水道料金

- ・水道料金については、今後おそらく上げていこうと予測しているが、将来的に一度値上げをした後でもう一度値上げをしなければならぬ事態も起こり得ると思われるため、そのあたりのシミュレーションもきちんと行っていただきたい。